

2019年3月期第2四半期決算 補足資料

2018年11月12日

 図書印刷株式会社 (7913 : 東証1部)

1 2019年3月期第2四半期決算とトピックス

2 2019年3月期見通し

3 中期経営計画（2017年度～2019年度）の進捗状況

4 ご参考（会社概要・特徴など）

1 2019年3月期第2四半期決算とトピックス

2 2019年3月期見通し

3 中期経営計画（2017年度～2019年度）の進捗状況

4 ご参考（会社概要・特徴など）

2019年3月期第2四半期決算のポイント

売上高 **233**億円 (▲1.4%) 営業利益 **▲1,139**百万円 (▲975百万円)

* 伸び率は前年同期比、カッコ内の数値は前年同期

出版印刷分野

売上：▲5.4%
(市場：▲7.2%)

市場縮小の影響で減収

- 出版社からの受注が大幅に減少
- 特にコミックスは電子化の影響で▲8.0% (市場：▲14.4%)
- 対して学習参考書は堅調 + 12%強 (市場：+8.0%)

マーケティング分野

売上：▲4.9%
(市場：▲1.5%)

紙媒体の減少が進む中、採算性重視の営業活動

- プロモーションメディア費 (市場：▲1.5%) は紙媒体が軒並み減少、
- インターネット広告(市場：+ 15.2%) は伸長し、デジタルシフトが鮮明に
⇒販売促進手法が紙とデジタルを併用するスタイルが一般化

教育ソリューション 事業

桐原書店が前半期初の連結業績取り込みの影響 (後述4、8ページご参照) もあり営業利益は減益

売上：1,171百万円 (2017年11月から連結対象)
営業利益：▲786百万円

2019年3月期第2四半期決算ハイライト① (全体)

単位：百万円	2018年3月期 第1・2四半期	2019年3月期 第1・2四半期	増減額	前期比	2019年3月期 業績予想
売上高	23,719	23,385	▲334	▲1.4%	55,000
営業利益	▲975	▲1,139	▲164	-	200
経常利益	▲628	▲921	▲293	-	600
親会社帰属 当期純利益	73	▲740	▲813	-	200

- **売上高：** 出版市場の落ち込み、マーケティング分野における採算性重視の営業活動による減収を桐原書店連結子会社化でカバーできず減収
- **営業利益：** 情報デザイン事業は原価削減を進めて増益となるも、教育ソリューション事業は桐原書店の連結子会社化が影響して、全体では減益。
- **親会社帰属当期純利益：** 前年同期は有価証券売却益を計上

2019年3月期第2四半期決算ハイライト② (事業別売上高)

単位：百万円	2018年3月期 第1・2四半期	2019年3月期 第1・2四半期	前期比 (%)	2019年3月期 業績予想	進捗率
売上高	23,719	23,385	▲1.4%	55,000	42.5%
情報デザイン事業	23,438	22,213	▲5.2%	49,500	44.9%
出版印刷	12,932	12,224	▲5.4%	26,700	45.8%
マーケティング	8,002	7,606	▲4.9%	17,800	42.7%
新聞印刷	2,504	2,383	▲4.8%	5,000	47.7%
教育ソリューション (SOL) 事業	281	1,171	+317.0%	5,500	21.3%
学校図書	281	259	▲7.7%	2,100	12.3%
(※) 桐原書店	-	912	-	3,400	26.8%

(※) 2017年11月から連結子会社化

- **情報デザイン事業**：出版物の需要減少に加え、マーケティング分野での採算性重視の営業活動の影響で紙媒体受注が減少
- **教育SOL事業**：教科書ビジネス端境期で学校図書は低迷、桐原書店は初の6か月連結

2019年3月期第2四半期決算ハイライト③ (事業別営業利益)

単位：百万円		2018年3月期 第1・2四半期	2019年3月期 第1・2四半期	増減額
営業利益		▲975	▲1,139	▲164
	情報デザイン事業	▲551	▲352	+199
	出版印刷・マーケティング分野	▲589	▲419	+170
	新聞印刷分野	38	66	+28
	教育ソリューション (SOL) 事業	▲428	▲786	▲358
	学校図書	▲428	▲469	▲41
	桐原書店	-	▲316	▲316
	連結調整	3	0	▲3

- 情報デザイン事業：収益性改善活動（7ページご参照）が寄与し、営業赤字は縮小
- 教育SOL事業：桐原書店は後半期偏重型の収益構造（8ページご参照）もあり、2Q期末時点で赤字計上

- **原価率は各工場・生産拠点で改善（変動費・固定費ともに削減）**

変動費抑制：採算性を重視した営業活動、外注費削減、物流収支改善
固定費率低下：省人化、人員の教育ソリューション事業へのシフトなど

(単体)	前年同期比
損益分岐点売上高	▲6.4%



引き続き、採算性重視の営業活動や更なる原価低減に向けた取り組みを加速させ、変動費抑制と固定費削減で損益分岐点売上高を下げていく。

桐原書店の収益インパクトについて

桐原書店の連結子会社化（2017年11月）

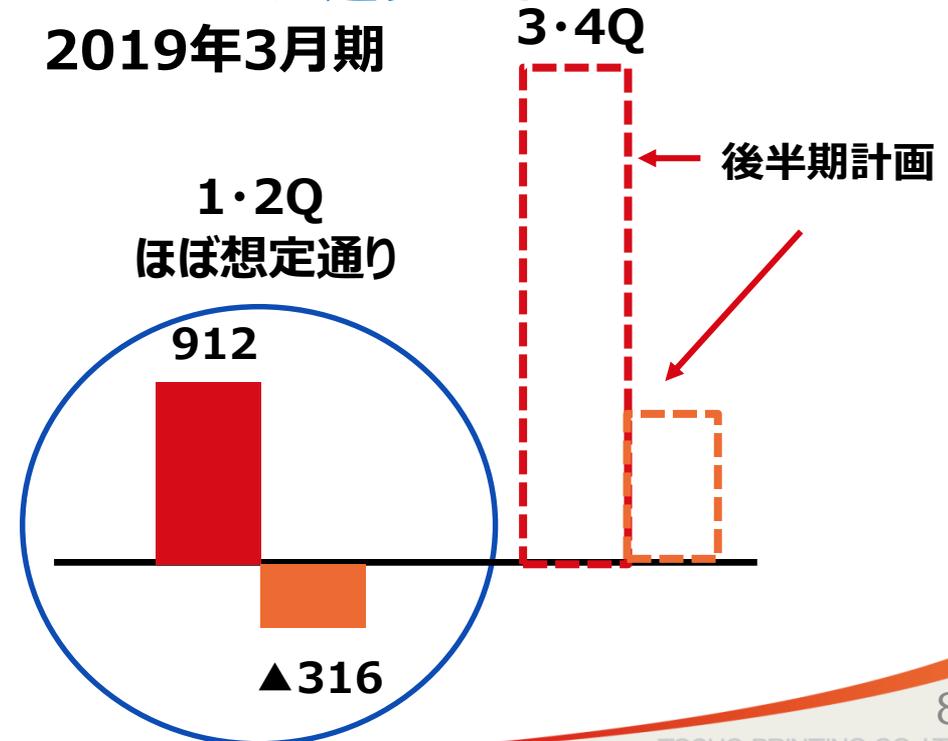
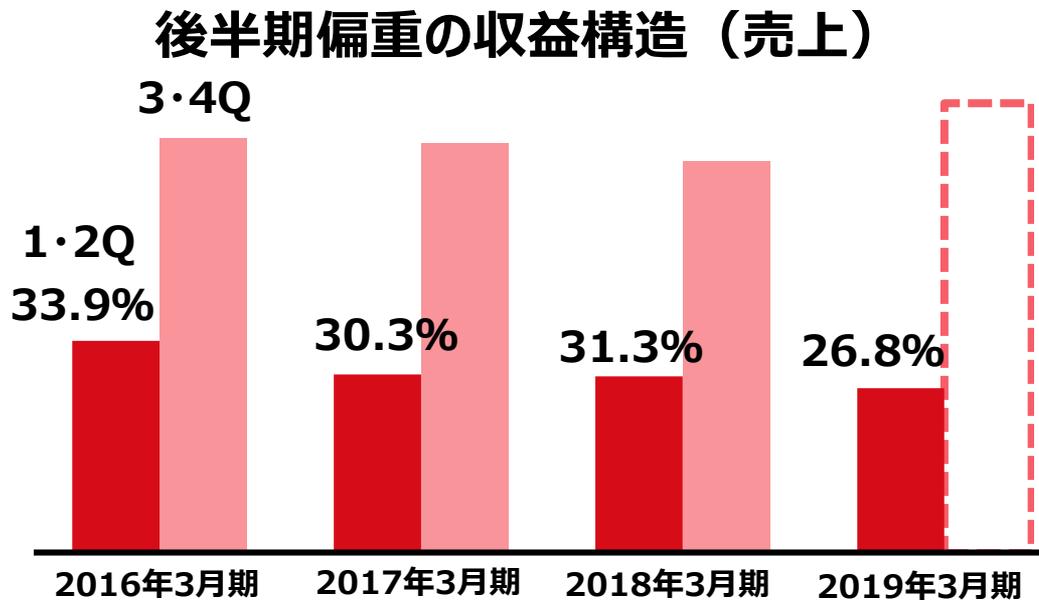
2018年3月期（5か月連結）

売上高2,060百万円、営業利益477百万円
（2017年11月～2018年3月）

2019年3月期1・2Q（6か月）

売上高912百万円、営業損益▲316百万円
（2018年4月～2018年9月）

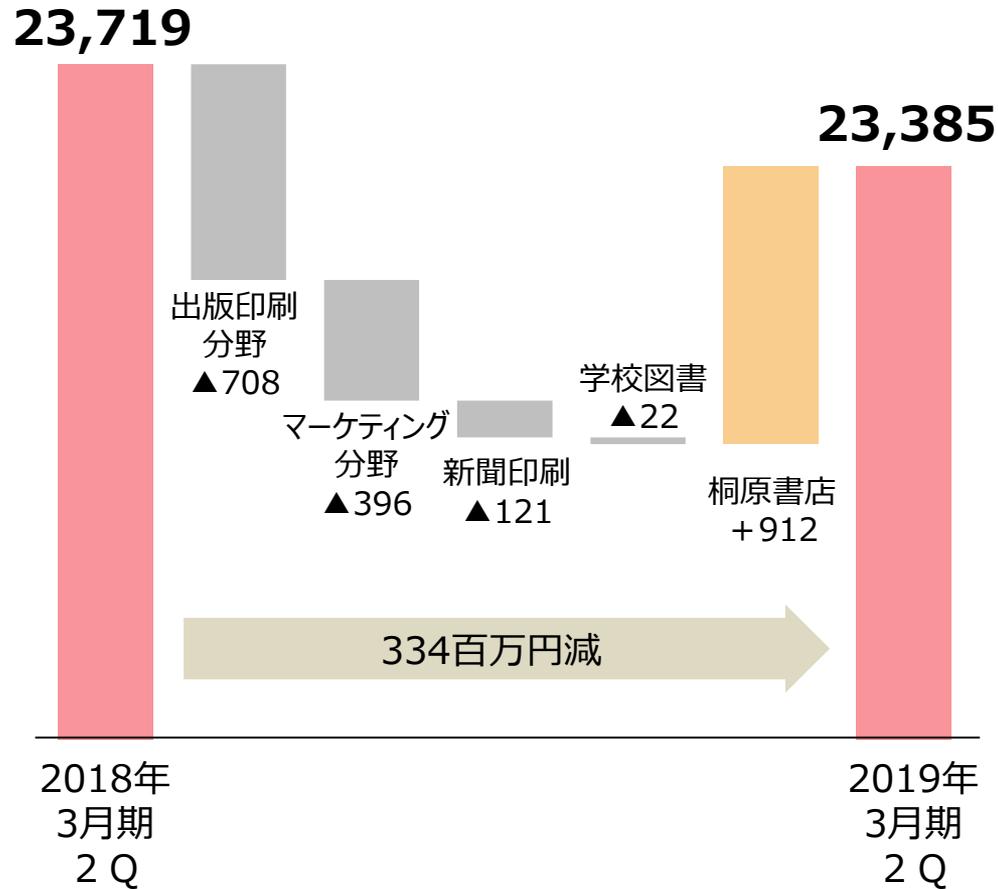
桐原書店の収益構造は後半期偏重型
前半期はほぼ想定通りに推移



2019年3月期第2四半期決算・業績要因分析

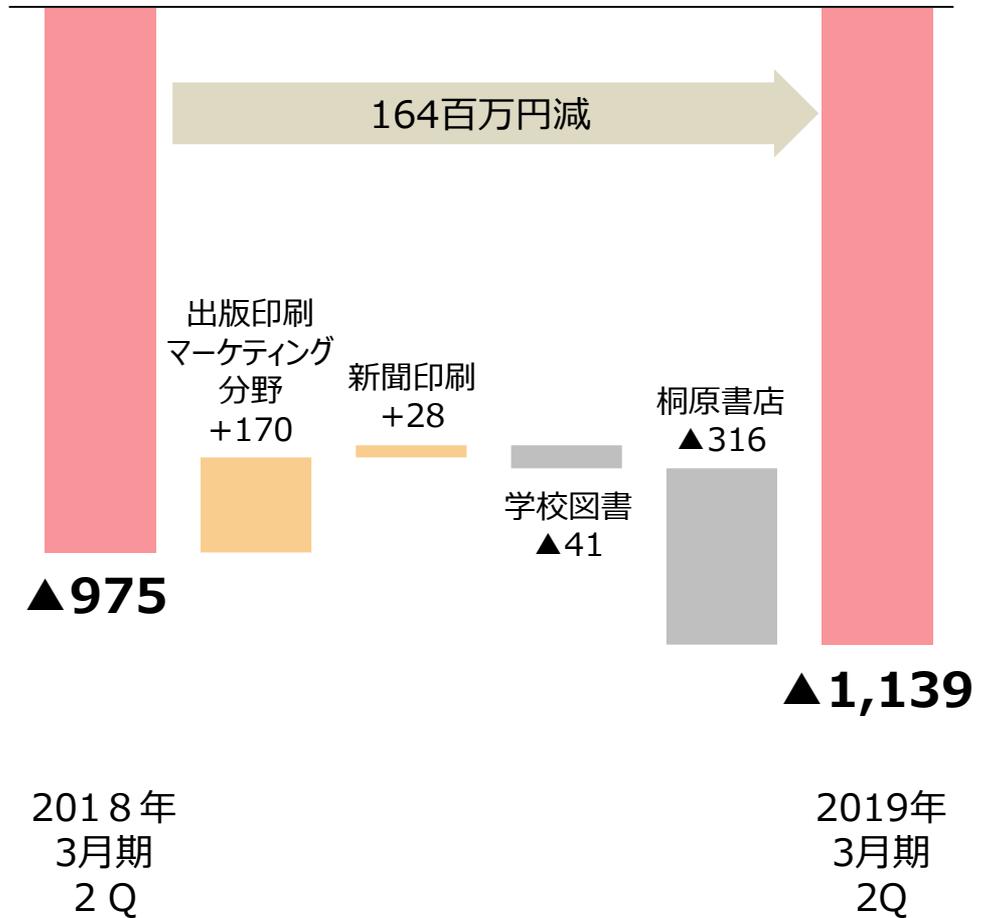
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



2019年3月期第2四半期・キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円	2018年3月期 第1・2四半期	2019年3月期 第1・2四半期	対前年同期比概要
現金及び現金同等物の期首残高	19,386	18,576	
営業活動キャッシュ・フロー	▲5,121	615	売上債権回収 +1,760 法人税等支払額 +5,167
投資活動キャッシュ・フロー	4,435	▲660	有価証券売却・償還▲4,780
財務活動キャッシュ・フロー	▲356	▲855	配当金支払 ▲511
現金及び現金同等物の増減額	▲1,042	▲900	
現金及び現金同等物の期末残高	18,344	17,676	

- **営業活動キャッシュ・フロー**：前年同期は有価証券売却に伴う法人税等支払が発生
- **投資活動キャッシュ・フロー**：前年同期は法人税等の支払に伴う有価証券の取り崩しが発生
- **財務活動キャッシュ・フロー**：配当金の支払が増加

喫緊の課題：情報デザイン事業の収益改善 + 教育ソリューション事業の拡大

- 印刷需要の想定以上の減少・・・紙とデジタルを融合したサービス展開、収益性改善
- 教育ソリューション事業の拡大・・・英語を軸とした事業領域を更に拡大

デジタルシフトが加速

出版印刷（+新聞印刷）

- メディアのデジタル化
- 紙のコミック・雑誌需要の大幅減少
※出版市場は直近で7.2%減少

商業印刷

- 紙媒体のみの販促機会の減少
- 販促のメディアミックス・デジタル化
※広告市場のポモーションメディア費は直近で1.5%減少



情報デザイン事業の収益改善

ソリューション指向への転換

（デジタルと紙媒体印刷の融合）

採算性を重視した営業活動

人員の最適配分

（成長・未開拓分野への配置転換）

工場の省力化・省人化

（最適生産体制の確立）

+

教育ソリューション事業の拡大

1 2019年3月期第2四半期決算とトピックス

2 2019年3月期見通し

3 中期経営計画（2017年度～2019年度）の進捗状況

4 ご参考（会社概要・特徴など）

中計第1ステージの計画達成に向けて

- 中期経営計画（2018年3月期～2020年3月期）の2年目、最終年度計画達成に向けた重要な年
- 事業環境変化の想定以上の進行を踏まえ、原価低減等により情報デザイン事業の収益性改善を図る
- 教育ソリューション事業は、K G E デュケーション H D を中心として英語を軸にシナジーを発揮し、増収増益を達成する

単位：百万円	2018年3月期 実績
売上高	53,684
営業利益	55
営業利益率	0.1%



2020年3月期 計画
60,000
1,200
2.0%

情報デザイン事業

出版印刷分野
多様な印刷ニーズに
対応

デジタルショートラン
スタート

マーケティング分野
デジタルシフトへの
取組み強化

CRM/EC
取組みスタート

教育ソリューション事業

英語を軸とした
事業領域の拡大

語学研修サービス強化
教育ICT分野開発加速

原価低減と収益性改善

採算性重視の営業活動、最適な人員再配置、生産効率向上、物流収支改善

「情報をデザインする会社」へ人事制度を大幅に改革

- ① 人員のシフト・・・教育ソリューション事業、デジタルマーケティング分野へ
(社内公募、中途採用も実施)
- ② 人事体系の変更・・・能力重視 ⇒ ミッション重視 (実効性、公平性)
(本年10月から導入)

2019年3月期業績予想：期初予想を変更せず

単位：百万円	2018年 3月期実績	2019年 3月期予想	増減額	前期比 (%)
売上高	53,684	55,000	+1,316	+2.4%
営業利益	55 (0.1%)	200 (0.4%)	+145	+261.4%
経常利益	577	600	+23	+3.8%
親会社帰属 当期純利益	875	200	▲675	▲77.2%

売上高

- **情報デザイン事業** 市場変化に適応した事業活動の見直し加速
- **教育SOL事業** 英語を軸にしたシナジー発揮（販売チャネル活用・共同開発）

営業利益

- **既存事業の収益改善と教育SOLの増収効果による収益力向上**

親会社帰属
当期純利益

- **有価証券売却などの特別利益は見込まず**

2019年3月期業績予想 (事業別売上高) : 期初予想を変更せず

単位：百万円	2018年 3月期実績	2019年 3月期予想	増減額	前期比 (%)
売上高	53,684	55,000	+1,316	+2.4%
情報デザイン事業	49,588	49,500	▲88	▲0.2%
出版印刷分野	27,555	26,700	▲855	▲3.1%
マーケティング分野	17,004	17,800	+796	+4.7%
新聞印刷分野	5,028	5,000	▲28	▲0.6%
教育ソリューション事業	4,096	5,500	+1,404	+34.3%
学校図書	2,036	2,100	+64	+3.1%
桐原書店	2,060	3,400	+1,340	+65.0%

**通期の配当方針を変えず
当期純利益の範囲内で積極的な株主還元**



*事業構造転換や企業価値向上投資のため
一定水準の内部留保資金は確保と認識

2019年3月期

**当期純利益の範囲内で期末配当金 1株4円予定
(予想連結配当性向 85.6%)**

1 2019年3月期第2四半期決算とトピックス

2 2019年3月期見通し

3 **中期経営計画（2017年度～2019年度）の進捗状況**

4 ご参考（会社概要・特徴など）

中長期ビジョン：「情報をデザインする会社」へ

現在の図書印刷

印刷会社

出版印刷

商業印刷

社会の構造的変化

- デジタル化
- ネットワーク化
- メディアの多様化

これからの図書印刷

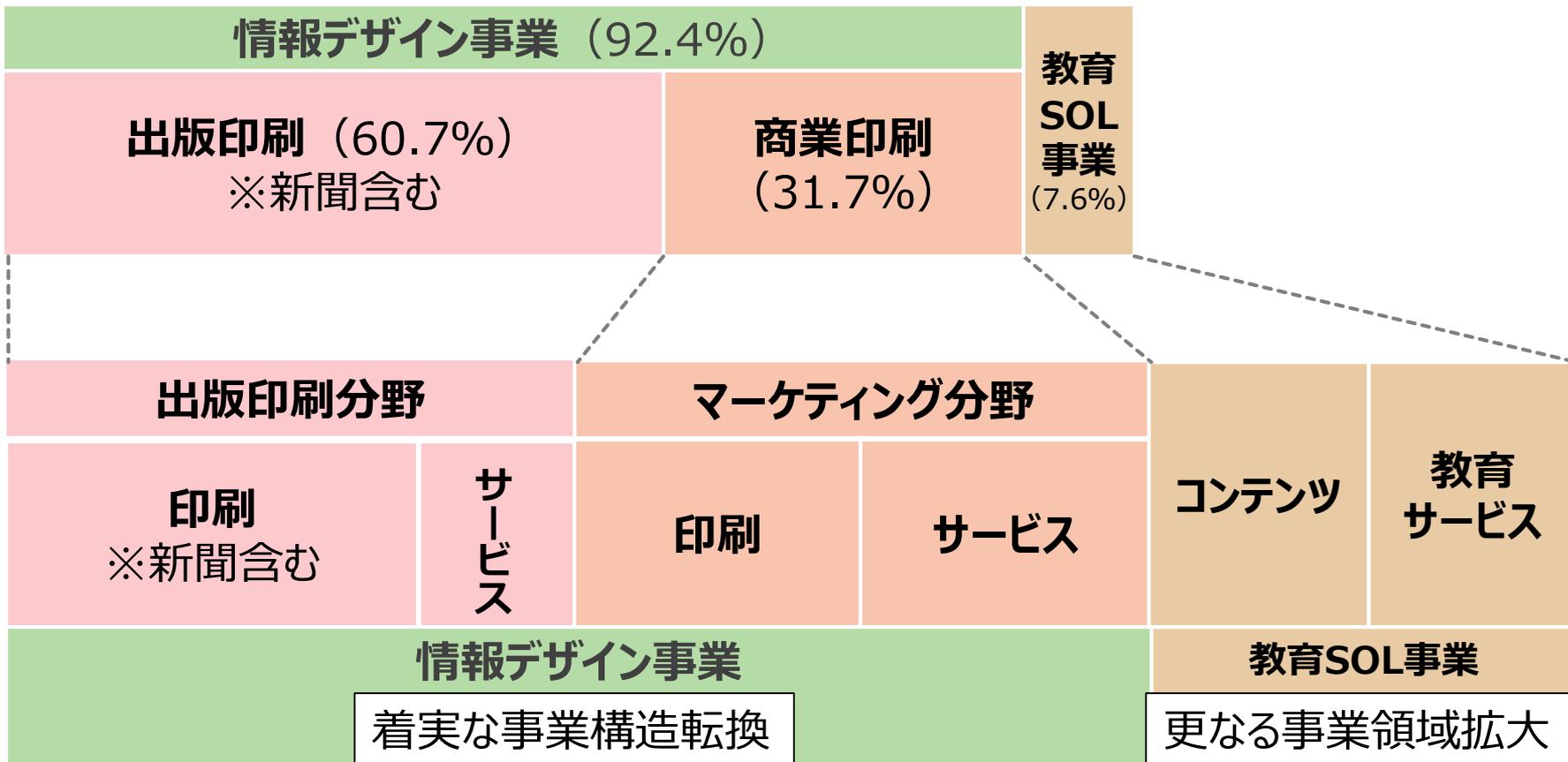
情報をデザインする会社へ

出版印刷に加え、
**情報発信を
プロデュース**

商業印刷に加え、
**マーケティング活動
全般を支援**

中長期事業転換：「情報をデザインする会社」+「教育ソリューション事業拡大」

2018年3月期



中期経営計画
第三ステージ
終了時点

2017~2019年度 (3か年) 投資計画

1. 事業構造転換	100億円
2. 事業領域拡大	200億円

* デジタルショートラン（DSR）の稼働

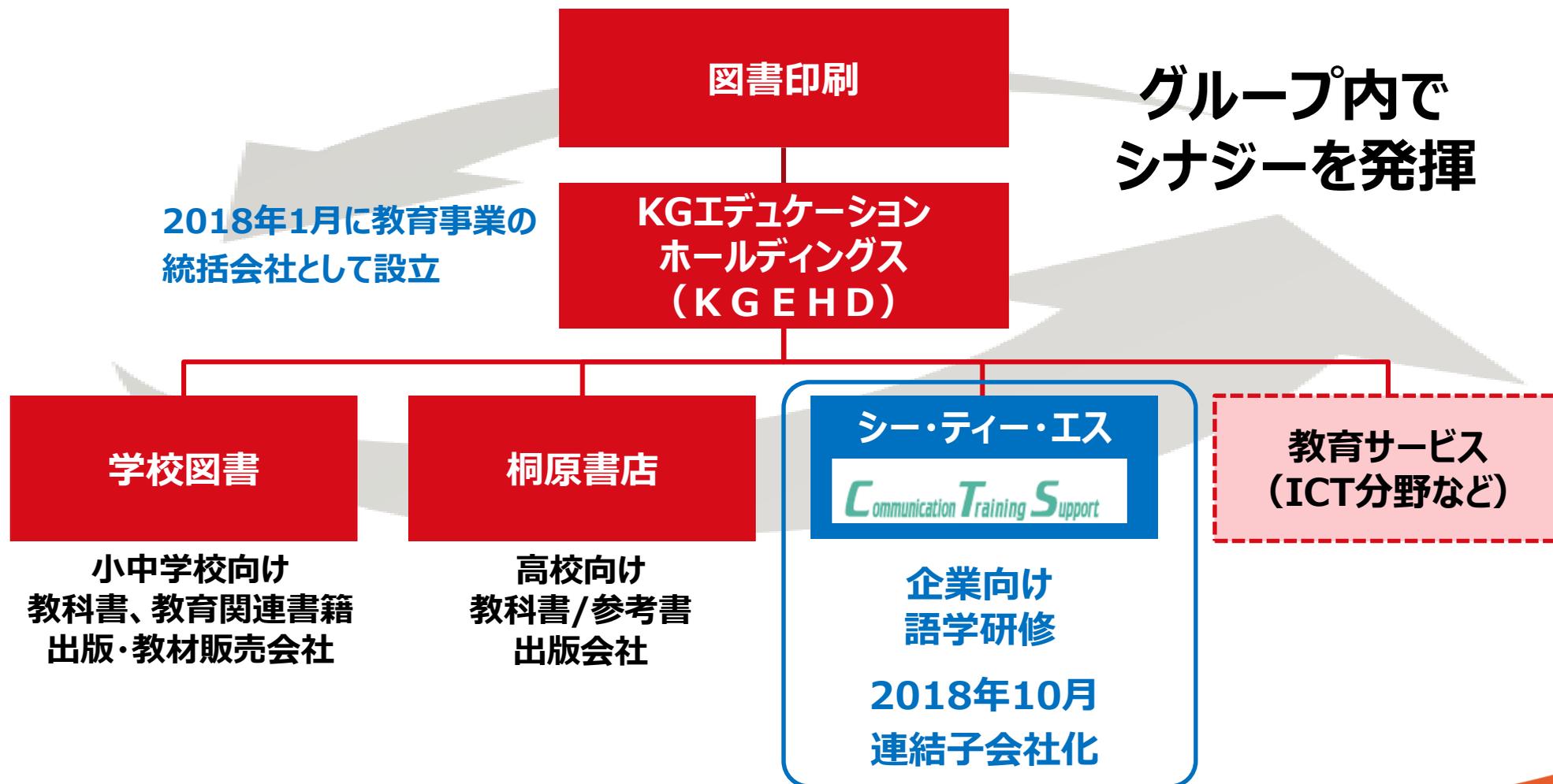
- **多様化する印刷ニーズに応える印刷生産ライン(デジタル印刷機)を本格化**
 - 書籍や雑誌を始めとして、バリアブル印刷や小ロット製造など、多様化する印刷ニーズに対して柔軟に対応。
 - Web受注～オンデマンド製造～発送までの効率的な製造体制を実現。

* デジタルマーケティングの展開

- **印刷会社の強みであるデータ管理力を活かしたビジネスの展開**
 - データ管理力にCRM/ECソリューションを組み合わせることで、顧客のマーケティング活動を支援する
 - 対象は、CRM/EC運用のアウトソーシングニーズが高い顧客を想定

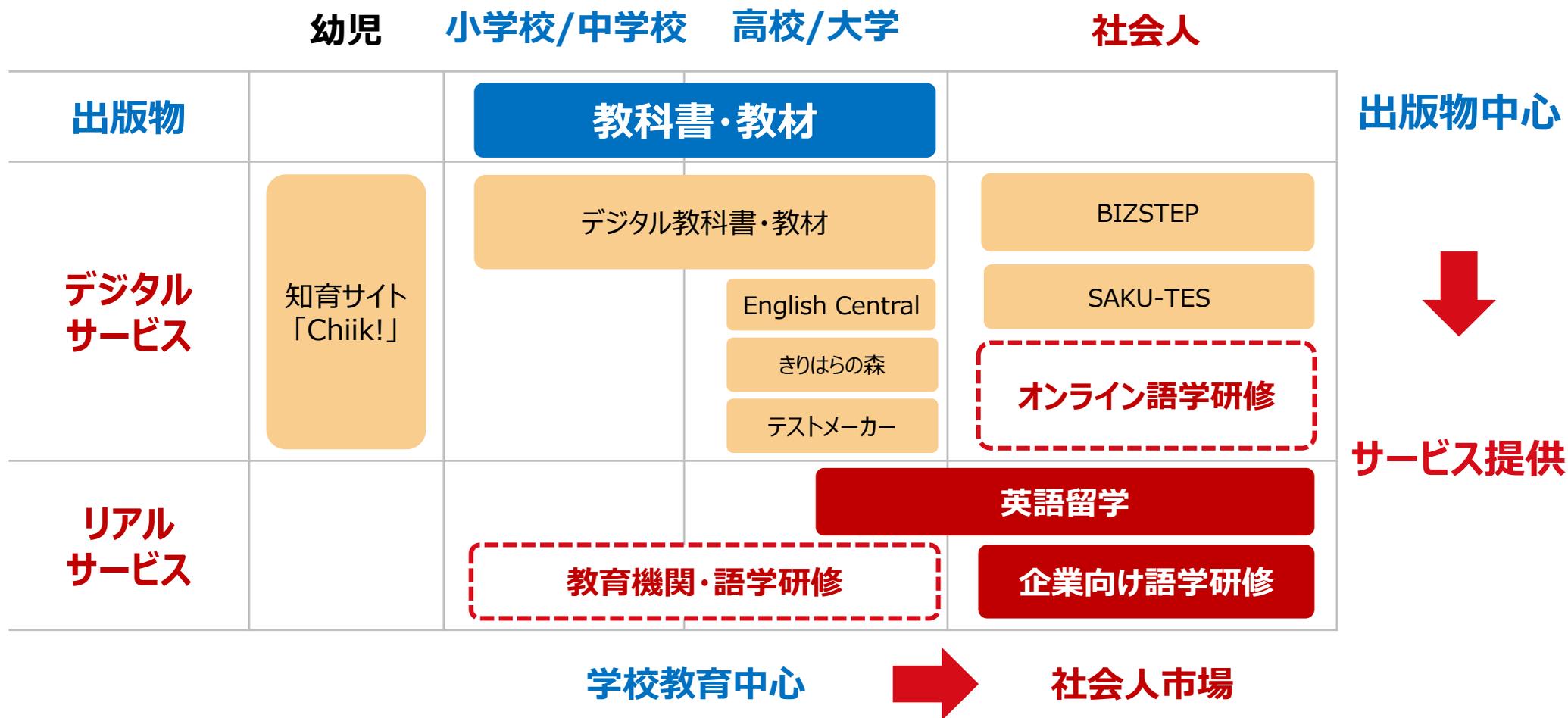
教育ソリューション事業の体制：KGEHDを軸にグループ内で「横串」展開

- 中間持株会社（KGEHD）の傘下に教育事業会社を置いて推進力を強化
- 積極的な投資で教育関連企業を増やし、「シナジーを最大化」する体制を構築
- 今後、グローバル人材育成ニーズに対応するべく、「英語」を軸として事業を展開



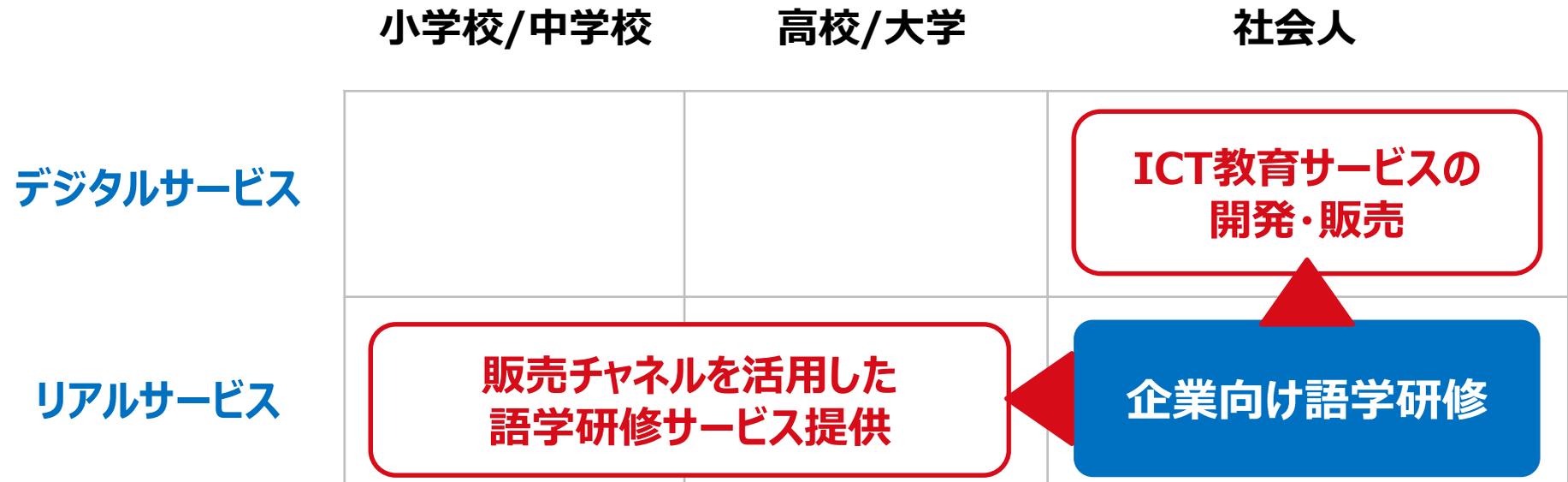
教育ソリューション事業の戦略：英語を軸に「出版」から「サービス」へ

- 現状：教育ソリューション事業は、学校向け教科書・教材出版を中心とした展開
- 今後、強みである「英語」を軸として、教育コンテンツ・サービスを強化



企業向け語学研修サービスの(株)シー・ティー・エスを 教育事業を統括するKGエデュケーションホールディングスを通じて 100%子会社化

- 1994年に設立、社会人向け語学研修サービスを提供、フルカスタマイズが強み
- 主要取引先は、官公庁・大手優良企業多数（メーカー、商社など）
- 直近業績：売上高448百万円、営業利益25百万円（2018年7月期）
- **グループの販売チャネル活用、ICT教育サービスの開発・販売により、シナジーを発揮**



プラットフォーム上で各商品/サービスを連動して展開

学習コンテンツ

検定教科書/テキスト



小学校/中学校/高校/大学

学習参考書



デジタルサービス



リアルサービス

企業向け語学研修



語学留学



自律学習を助けるプラットフォームの開発・提供

学習目標

アセスメント

個の弱点の見える化

学習計画

個の特性に合わせた道筋の提示

学習コンテンツ・学習方法の提供

最適な学習コンテンツ・および方法の提供

進捗管理

学習に対するフィードバック

学習成果

学習目標と成果を結ぶ最適ルートを個に合わせて設計・管理

1 2019年3月期第2四半期決算とトピックス

2 2019年3月期見通し

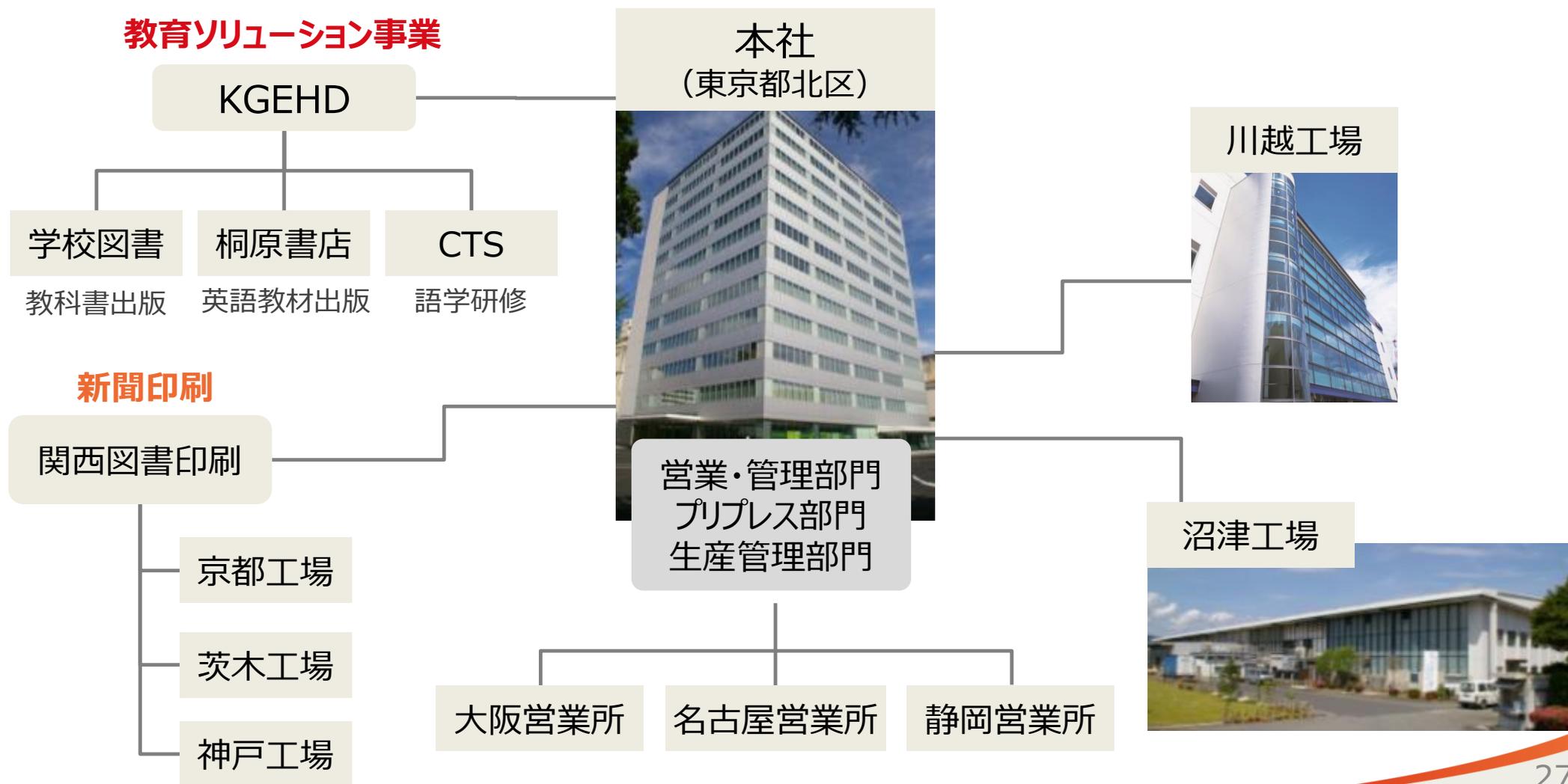
3 中期経営計画（2017年度～2019年度）の進捗状況

4 **ご参考（会社概要・特徴など）**

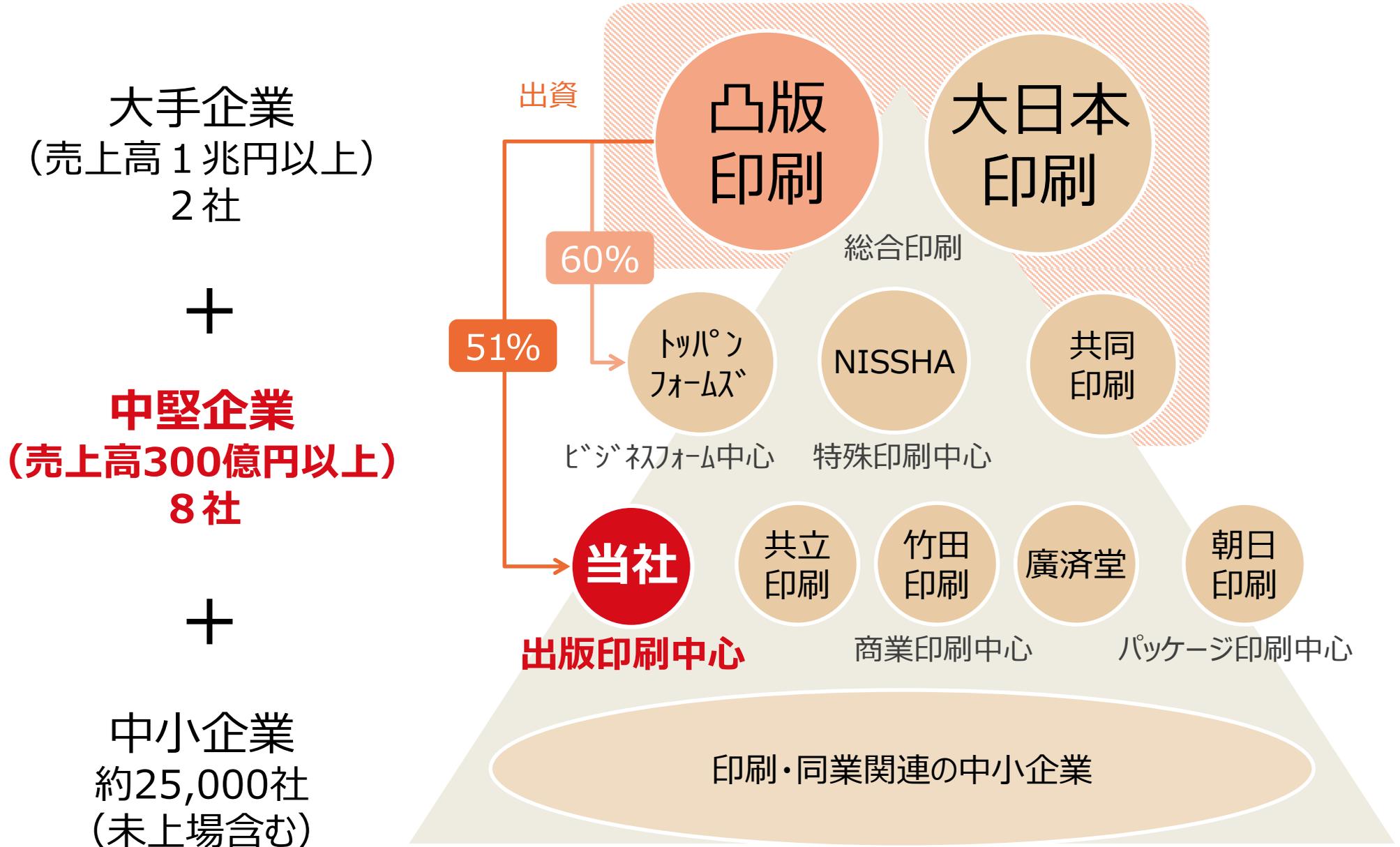
事業展開： 拠点は法人印刷需要多い「東名阪」に配置

印刷需要を的確・迅速にサポートするため、人口集積度の高い東名阪中心。

KGエデュケーションHDを中心に教育ソリューション事業を展開。関西地区では、新聞印刷工場も運営。



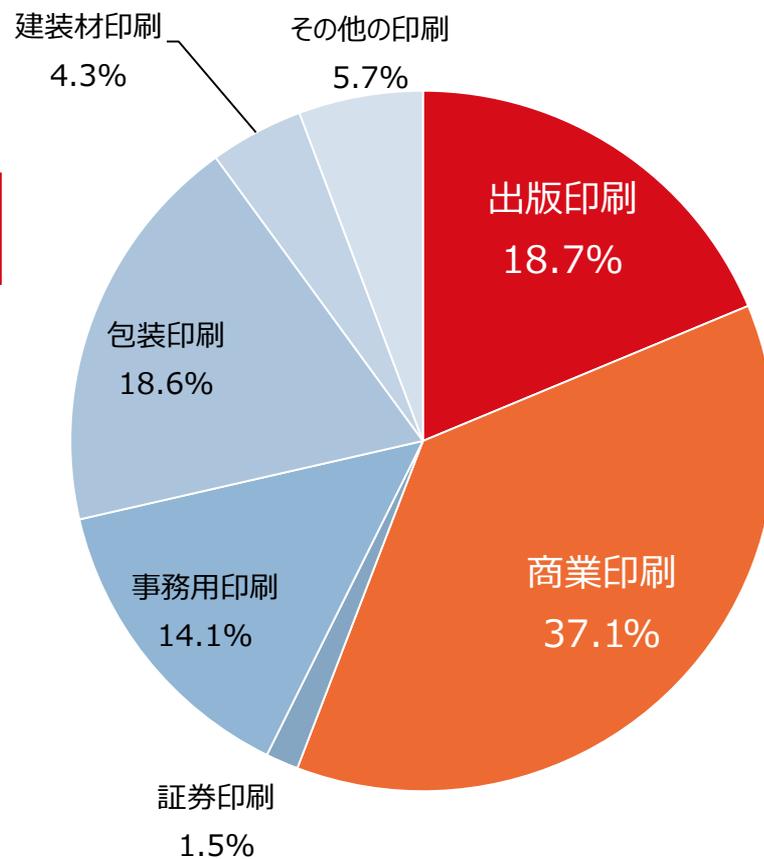
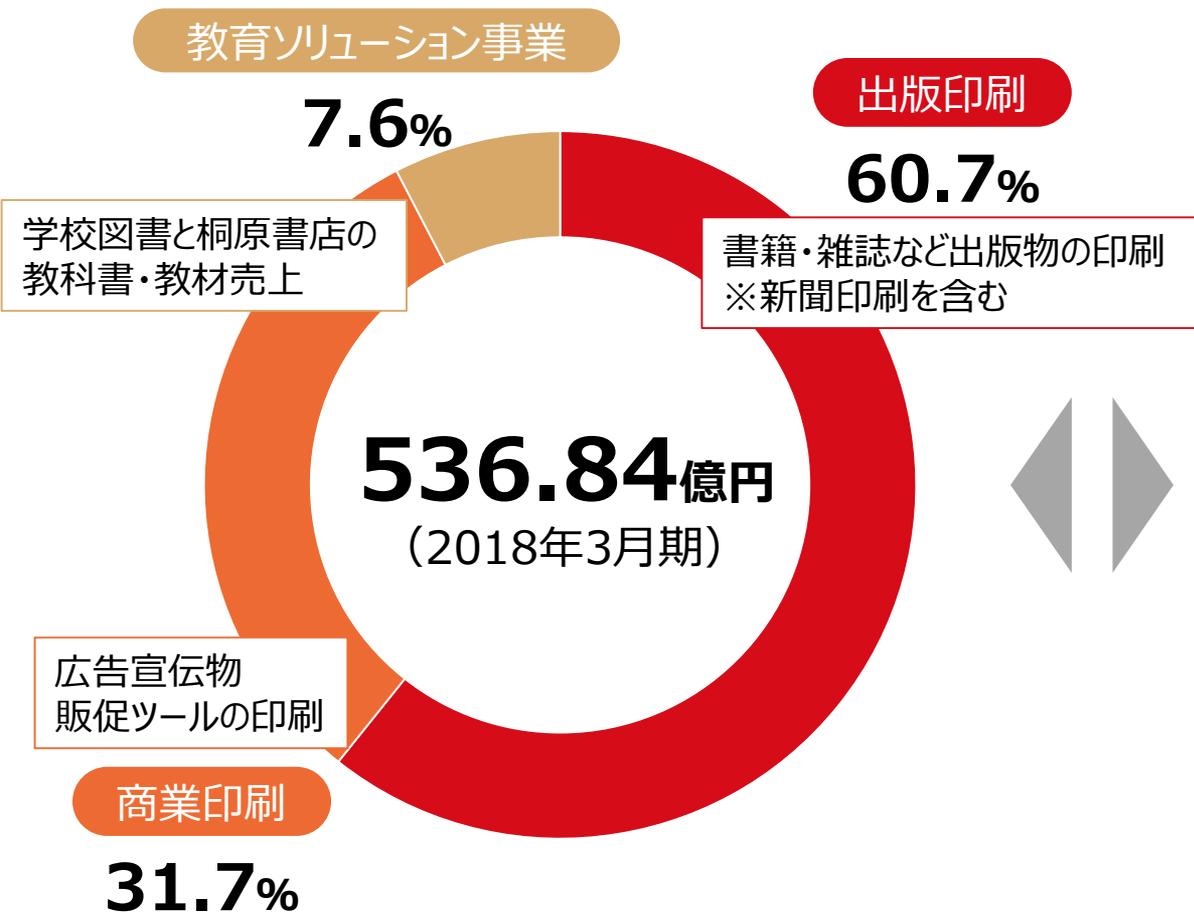
印刷業界構造と当社のポジション：大手2社＋中堅8社でシェア約50%



売上構成： 出版印刷が6割と業界と比べて多い

当社 出版印刷6割、商業印刷3割強

印刷業界 出版印刷2割弱、商業印刷4割弱



印刷業界・印刷品目別生産金額
経産省「生産動態統計」2015年度

顧客基盤力

- **100年を超える歴史**で醸成された大手出版社など堅固な**顧客基盤**
- 書籍・雑誌の**出版印刷が主力**で、出版社の企画・編集・制作部門との繋がりが強い

製造技術力

- 「**大ロット印刷ライン**」を保有することで、出版物の印刷を中心に大部数でも、高度かつ安定した品質を提供できる
- 「**一貫製造体制**」がある
- 「**高い製本加工技術**」に裏付けられた、**高品質・付加価値印刷物**が提供できる

教育・文化事業ノウハウの保有

- **教科書・新聞印刷**を通じて、「文化・教育分野」における長年の実績とノウハウを保有している

「教科書出版事業」から「教育ソリューション事業」への転換



教科書出版事業

- グループ会社「学校図書」が担当
- 小中学校の教科書、教材、教育関連書籍を発行
- 教育業務ノウハウを蓄積。近年は、デジタル教材にも対応

転換

「教育ソリューション事業」として再編。今後の主力事業に

2017年11月

桐原書店の連結子会社化

学習に喜びと感動を
桐原書店

2018年01月

KGエデュケーションHD設立
学校図書の完全子会社化

+

2018年10月

(株)シー・ティー・エス（語学研修サービス）の
連結子会社化

Communication Training Support

免責条項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。

お問合せ先

図書印刷株式会社 CSR推進部 広報G

ir@tosho.co.jp

2018年11月

 図書印刷株式会社